

# 開館2年を迎えたふるさと府中歴史館 —公文書史料室の開設、そして現在—

府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課郷土資料担当主査

庄司 明由 しょうじ・あきよし

## 1. 施設の概要

府中市立ふるさと府中歴史館（以下「歴史館」と略す）は、東京都多摩地区初の市町村立公文書館として、また府中市の歴史・文化を紹介する施設として、2年前に開館した。

場所は、府中市の中心部である国史跡武蔵国府跡の中、大國魂神社境内の一角にある。昭和42（1967）年に建てられ、長年、中央図書館として使用されていた建物を改修し、リニューアルオープンした。



ふるさと府中歴史館

### 1階 国府資料展示室

武蔵国府跡に特化した展示室で、瓦や硯などの国府の遺跡ならではの出土遺物を展示している。また、市内で毎日のように行われている発掘調査の成果をいち早く公開する、「掘りたて」遺物を紹介する展示ケースもある。

デジタル機器を使ったシステムも、当館の特色である。その一つが「デジタル郷土かるた」で、府中の歴史や名所を題材にした「郷土かるた」を、

タッチパネルで遊べる。また、「国府百景バーチャルツアーリング」では、発掘調査の成果に基づいてCGで再現した奈良時代の国府の街を、レバーやボタンを操作しながら探検できる。

### 2階 公文書史料室

公文書史料室は、近代以降の公文書を中心に保存・公開を行う施設である。所蔵資料は、明治初期から昭和50年代までの歴史的公文書資料を中核とし、近年選別・収集した公文書、及び市が刊行した行政資料などである。史料室の開架書架では、市刊行の行政資料や府中の歴史等に関する資料を自由に閲覧できる。

史料室には担当職員が常駐し、利用者のレファレンス等に対応している。



公文書史料室

### 2階 公文書史料展示室

公文書史料展示室では、公文書館の業務内容を紹介するとともに、館で所蔵する公文書の一部を展示している。ただし公文書のみでは、インパクトのある展示を継続するのは難しいのが実情であ

る。

このため、明治10年代から昭和30年代までの読売新聞の展示を併せて行っている。これは、市内の旧家が長年にわたり自宅で保管していたもので、寄託資料として所蔵している。昭和の初期から掲載された多摩地域版が含まれ、地域の資料としても重要なものである。この資料を活用し、「百年前の今日の新聞」というコーナーで、百年前の同月同日の新聞を毎日取替えながら展示している。

また、「学芸員のこだわり展示」と題し、職員の得意分野を生かしたテーマ展を開催している。たとえば、今は失われてしまった遺跡を昭和20年代の市内の空中写真を使って紹介する、「紙」史料と考古学とをドッキングした展示などである。

### 3階 国府資料室・会議室

国府資料室では、武蔵国府に関する図書や、全国各地の国府の発掘調査報告書などの資料を、収集・閲覧・保存を行っている。

また会議室では、講座や研修会で利用するとともに、5月の大國魂神社くらやみ祭や夏休みのこども向け発掘速報展など、時期に合わせた特別展示を実施している。

## 2. 資料の選別

開館に先立ち、平成17年度から行ったのが、文書保存期限が満了した文書の選別作業である。毎年1,100箱程度の文書が、保存期限満了となる。作業を始めた当初は、保存期限満了リストに載せられたファイル名だけでは公文書全体の内容を把握できなかったため、2年間分・約2,200箱の文書すべての内容を確認し、選別した。

肉体的にも精神的にも大変な作業ではあったが、おかげで選別する公文書の内容について、その全体像をつかむことができた。現在では、1年分のうち5~600箱はリストでファイル名を確認し、選別して箱単位で廃棄。ファイル名だけでは判別できない残り半分について、実際に現物を確認している。

選別作業の結果残すのは、年平均600ファイル強、

割合にして文書全体の約3%程度である。

## 3. 開設に向けての資料の収集

公文書史料室の中核をなす明治初期から昭和50年代までの歴史的公文書資料は、昭和30~50年代にかけて行われた府中市史編纂時に収集したものである。これまで府中市の総合博物館である郷土の森博物館が保管してきたが、公文書史料室の開設にあたり、博物館から歴史館に移管し、改めて整理、目録作成を行った。

さらに、図書館では、規定保存冊数以上の寄贈を受けた府中市の行政資料を、紛失・破損の際の補充資料として保管していた。これらの資料の一部も、歴史館に移管し、公文書史料として公開している。現在では収集不可能といてよい、相当の年月が過ぎた行政資料を公文書史料室において閲覧できる環境は、利用者の幅広いニーズに応えるのに大いに役立っている。

## 4. 図書館オンラインシステムの活用

当館では、所蔵する資料のデータ管理については、図書館オンラインシステムに乗せて運営している。開設の計画段階では公文書館独自のシステム構築も検討したが、費用・セキュリティ・汎用性に関する市の方針等から、既存の図書館システムを利用することになった。

ただし、公文書館と図書館とでは、資料の性格に大きな違いがあり、当然、書誌の構成要素も異質のものである。また、公文書は、一点しかない原資料であり、劣化している物も多く、取扱いに注意が必要である。さらに、個人情報等の点から、一部非公開となっている場合も多い。このように様々な利用制限のある公文書史料を、広く一般に利用可能な図書資料と同列に扱うと、かえって利用者に混乱を招く恐れがある。

こうした問題を解決するために、図書館の協力のもとに従来のプログラムを手直しして、「公文書」という資料種別を設け、「ふるさと府中歴史館」というサービスポイントを新設した。また図書館と歴史館とでは、業務用端末の初期設定を変

更なる対策を講じた。たとえば、図書館の端末で検索した場合、図書館で所蔵する資料のみが表示され、「公文書」という条件を入力しない限りは公文書の検索はできない。逆に、歴史館の端末では、歴史館、図書館両方の資料が検索できる設定となっている。

なお、インターネットによる検索については、現時点では図書館資料のみがサービス対象となっており、公文書史料の検索はできない。将来的には、公文書史料もインターネット検索を可能にする方向であるが、検索方法など検討すべき課題も多い。

幾つかの問題点はあるものの、データ管理に図書館オンラインシステムを使用することは、公文書館の運営面でも大きなメリットがある。第一が、開設にともなう費用の削減である。プログラムの修整費用はかかったが、独自システムを構築するのに比べれば、大幅な節減となった。第二は、時間および労力の軽減である。市刊行の行政資料については、図書館と共有する資料が多いため、書誌作成の手間を大幅に削減することができた。また、システムの運用においても、従来図書館が行ってきたデータの保守・管理対策をそのまま利用できるため、独自運用に比べ経費や労力の負担は軽い。さらに、今後の検討課題であるホームページの作成やインターネット検索システムについても、その導入にともなう費用や労力は負担軽減が見込まれる。

## 5. 公文書史料室の「利用」

---

現在、公文書史料室に持ち込まれるレファレンスの内容を考えたとき、回答のために歴史的公文書資料の閲覧が必要となるケースは少ない。活字化された行政資料や資料集等で回答を得られる事例の方が、圧倒的に多いといえる。

また、質問の内容も、近代史に関わるものとは限らない。とくに当館の場合、所在地が「武蔵国府跡」であるため、古代史や考古学についての質問も数多く寄せられる。また、1階の国府資料展示室を見て新たに興味を持った利用者が、より詳しい知識を求めて公文書史料室を訪れることもある。

こうしたレファレンスへの対応は、公文書館ではなく、図書館の地域資料や博物館が負うべき責務である、という意見もあるだろう。しかし資料を扱う公共機関の責務や利用者の利便性を考えるならば、公文書館・図書館・博物館の役割は、競合するものではなく、互いに補完し連携していくべきものである。

もともと、この利点を十分に生かすためには、それぞれの館の職員が、それぞれで取り扱う資料の性格的違いをきちんと理解し、適切な形で利用者に情報を提供していくことが重要であろう。直接公文書を利用するか否かにかかわらず多様な利用者のニーズに応えることは、地域の文書館においては、未来へ史料を残すという文書館本来の機能に対して広く理解を得るための、意味のある役割であると考えられる。

---

### データシート

機 関 名：府中市立ふるさと府中歴史館

所 在 地：〒183-0023 東京都府中市宮町3-1

電 話 / FAX：042-335-4393 / 042-360-4401

Eメール：bunkazai01@city.fuchu.tokyo.jp

ホームページ：http://www.city.fuchu.tokyo.jp

交 通：京王線「府中駅」より徒歩7分

JR南武線「府中本町駅」より徒歩7分

※駐車場はありません

開設年月日：平成23（2011）年4月1日

設置根拠：府中市立ふるさと府中歴史館条例（平成22年12月24日 条例第27号）

組織：市長－文化スポーツ部－ふるさと文化財課－郷土資料担当

人員：課長－課長補佐－主査－職員2名

建物：建築面積1,046.84㎡／延床面積2,375.80㎡

鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、地上3階建

1階／国府資料展示室（406.08㎡）、資料庫（256.83㎡）、中間資料庫（25.26㎡）ほか

2階／公文書史料室（170.42㎡）、公文書史料展示室（30.31㎡）、宮町図書館ほか

3階／国府資料室（72.00㎡）、会議室（137.00㎡）、ふるさと文化財課事務室ほか

所蔵資料：歴史的公文書資料5,000点、地域資料（府中市刊行物ほか）8,000点、国府関連資料2,500点

開館日：開館時間 火～日曜日／午前9時～午後5時

休館日：月曜日、月曜日が休日（国民の祝日・振替休日）にあたる場合は直後の平日

5月3日～5月5日（1階国府資料展示室のみ開室）

年末年始（12月29日～1月3日）

臨時休館（資料の特別整理日、設備の保守点検日等）

3階ふるさと文化財課事務室は、休日を除く月～金曜日の開室

主要事業：歴史的公文書史料の選別・整理・保存・公開

地域資料（府中市刊行物ほか）の収集・整理・保存・公開

公文書史料展示室の運営

レファレンス対応

